



新型コロナウイルス感染症に対応した協会活動について

(公社)有機合成化学協会 会長
三井化学株式会社 常勤監査役
諫山 滋

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界的に蔓延する中で、会員の皆様とご家族の安全と健康を心よりお祈りいたします。

全国に発令された非常事態宣言は5月21日時点で5都道府県を残して解除されましたが、第二波の発生懸念もあり、まだまだ気が抜けない状況が続くと予想されます。

かかる状況下、治療薬の研究が急務とされ、国内由来のアビガンや大村智先生のイベルメクチン等で早期承認を目指した臨床研究が進んでいることは、有機合成化学に携わる皆が大いに勇気づけられ、かつ期待するところです。また今後の新薬の開発と量産においても有機合成化学研究者が多大な貢献を果たしていく必要があります。

一方、COVID-19の感染拡大を防ぐためにはいわゆる3密や県境をまたがる移動を避ける必要があります。本会では3月以降、殆どの行事を秋以降に延期または中止と致しました。会員の皆様にご迷惑とご不便をお掛けしていることをお詫びします。とはいえ、いつまでも活動の停滞はできないとの認識の下、本会では活動再開に向けて5月15日の非常事態宣言の一部解除と同時に以下の基本的な考え方を策定しました。

◆基本的な考え方

1. 会員の命と健康を守ることを最優先に、会員への価値提供を継続する。
2. コロナ終息後に従来の協会活動に戻るという発想でなく、これを奇貨として、「新常态における非接触型の協会活動」も試行し推進する。
3. 全国の感染状況を勘案しながら、先行き3ヵ月単位での活動方針を共有する。

5月時点での判断としては先行き3ヵ月程度の期間での対面型の行事は極力避けざるを得ないと考えていますが、今後、全国の感染状況を注視しながら各行事の運営を検討しますので、皆様方のご理解とご協力をお願いします。特に「新常态における非接触型の協会活動」を実現するには会員の皆様方の英知とノウハウを結集する必要がありますと考えています。ここでいう「新常态」には色々な解釈がありますが、内閣府の科学技術政策で唱えられている新たな価値を生み出す概念としての Society5.0¹⁾の

中に、今後の重要な社会的課題として「非接触」をキーワードに加えると分かり易いと思います。元々、サイバー空間と非接触は親和性の高い概念ですので目指す方向性は変わりません。

化学の領域でも人工知能やビッグデータを活用した新材料開発などは急速に広まってきましたが、実際の学協会活動においては現場・現実・現時点を貴ぶ実学の精神から、なかなか仮想空間を使った知の交流は進んでいないのが現状です。

本協会においては理事会を含めた会議体はWEB会議で代替できると考えていますが、シンポジウムや講演会をどう非接触型で実現するかは大きな課題です。またface to faceで得られるインフォーマルな情報交換の担保も大事な視点です。

とはいえ、大学のオンライン授業は当たり前になってきていますし、身近な学術講演においてもYouTubeなどWEBを活用した情報発信が試行されており、学協会活動が大きく変わる可能性があります。したがって、今後、有機合成化学協会が持続可能な価値提供を行う上で仮想空間の活用は避けて通ることはできないと考えます。

目下の課題として、短期的には秋以降にコロナ感染が再度拡大した時に、現時点で延期している従来型の行事をどう実施するかを検討、中期的には新たな「仮想空間を利用した双方向的な情報交換の場」の実現が重要と認識しております。また、こういった仮想空間でのコミュニケーションについては、より日常的に慣れ親しんでいる若い世代の感性やノウハウを取り込むことも必要です。今後、協会として「新たな知の交流の場の創造」に取り組んでまいりますので、ぜひ皆様方のご協力をお願いする次第です。

末尾になりましたが、本稿が出る頃にはコロナ禍が沈静化し、皆様の生活の安全安心が戻っていることを切に願っています。

¹⁾ Society5.0: IoT, ロボット, 人工知能(AI), ビッグデータといった社会の在り方に影響を及ぼす新たな技術を活用しながら、「サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」(内閣府 HP: Society5.0 https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/)